

若宮商業高校企画実施計画書

1 企画提案概要

高校生レベルになると親子の会話や接点が少なく、協働の場は皆無となる。

このような環境に「ページ作り」「他の家庭との交流」「クラスとの交流」をインターネットを通して実現すれば、なによりも「時間の共有」が可能となる。

- ・学校とクラスと家庭の連携のもと「共同作品」作る楽しみ
- ・同じ世代を生きる親同士の情報交換の喜び
- ・クラス担任と親との交流の喜び

「切れる10代」が問題となりつつある今、インターネットという新しいメディアでかれらの居場所である「家庭」「学校」「教室」をつなぎ、協働作業を学校の授業に連動させて保証することによって、コミュニケーションの蘇生を促す。

2 企画のねらい

・背景

本校では8年間のインターネット利用により、本校の環境、生徒のリテラシーも高まってきた。自宅でもパソコンを購入し親子でメールアドレスをそれぞれに持ち、インターネットの利用が増えている。

しかしながら、家でホームページを作ることなどかなりの力量が必要とされ、実際ページをもっている家庭はほとんどない。

また、高校生レベルになると親子の会話や接点が少なく、協働の場は皆無となる。

このような環境に「ページ作り」「他の家庭との交流」「クラスとの交流」をインターネットを通して実現すれば、なによりも「時間の共有」が可能となる。

次の様な喜びが3者に与えられる。

- ・学校とクラスと家庭の連携のもと「共同作品」作る楽しみ
- ・同じ世代を生きる親同士の情報交換の喜び
- ・クラス担任と親との交流の喜び

・企画実践の必要性、新規性、汎用性、波及効果

家庭との連携の下、子どもを育てていこうとする願いは誰もが持つものの、実際にそのような場は高校では提供されていない。

新規性

「切れる10代」が問題となりつつある今、インターネットという新しいメディアでかれらの居場所である「家庭」「学校」「教室」をつなぎ、協働作業を学校の授業に連動させて保証することによって、コミュニケーションの蘇生を促す。

汎用性

これから4万校の学校がインターネットにつながれて行くが、その「家庭」へのつながりは今のところ考慮されていない。

すべての国民にインターネットリテラシーをという「ミレニアムプロジェクト」の先行

